



岸田めぐみ (ネット・社民の会)

- 1.通学について
- 2.ヒートアイランド現象について
都市形態から考える

問 特別支援学級は指定学区がより広いため、通学に苦勞があると聞いている。実態について把握しているか。

答 通学ルート、所要時間などは把握している。障がいの特性等により通学に困難さを抱える場合もあると考えている。通学に関わらず、困りごとを相談できる体制は整えている。

問 あたごスペースやゆうかり教室に公共交通を利用して通っている子もいる。就学援助制度対象でなければ多様な学びの場を選べない家庭もあると考えるがいかがか。

答 片道の通学距離が中学生6キロ以上が条件であるため、あたごスペースが対象になることはない。ゆうかり教室は就学でないため、支給要件にも当てはまっていない。

問 異常な暑さに対し、地球温暖化対策と共にヒートアイランド対策も欠かせない。次期都市計画マスタープランに地域の冷熱源活用のための「風の道」について配慮はあるか。

答 具体的な記述はないが、現象が緩和される街づくりは進んできた。都市づくりにおいては、「多摩市みどり環境基本計画」とあわせ、地球温暖化対策を進めていきたい。



きりき優 (自民党)

- 1.介護福祉事業者への支援について
- 2.フルピッチサッカー場や天然芝及び人工芝グラウンドの整備について

問 全国で介護事業者の倒産が急増。高齢化が進む多摩市の介護需要に対応するための事業者支援が急務ではないか。

答 物価高騰等の影響を価格転嫁できない介護福祉事業者の負担が増加している状況は認識している。安定してサービス提供できるよう支援を行っていく。

問 多摩市はJ1で6位と躍進を見せる東京ヴェルディのホームタウンであるのに、市民が恒常的に利用できるフルピッチのサッカー場がなく、特に天然芝や人工芝グラウンドが近隣市と比較して少ない。整備すべきでは。

答 サッカー競技を楽しめて、高みに向かって練習できるグラウンド環境の整備についてしっかりと考えていきたい。旧南豊ヶ丘小学校跡地は、今後もサッカーを主体としたスポーツ活動の場として継続活用していきたい。

問 人工芝の環境への影響についてどう考えるか。

答 サッカー場に使用されるロングパイル人工芝のマイクロプラスチック流出は95%以上捕捉可能であると伺っている。



いちぢ恭子 (ネット・社民の会)

- 1.自主学習活動「ラーケーション」の導入について
- 2.近隣センターの今後について

問 学びと休暇を組み合わせた「ラーケーション」制度について、市はどのように考えているか。

答 子どもの自主学習の促進と家族の参加・協力、平日にしかできない校外学習体験に意義がある。反面、制度を利用できない家庭もあること、休んだ日の履修の保障等の課題がある。

問 多摩市に導入の予定はないか。仮に行うとしたら、どのような内容になるか。

答 多摩市がこれまで取組んできたESD教育との親和性が高く、「総合的な学習」の一部として取扱う可能性が考えられる。

問 落合地域のスーパーが突然閉店し、地元の利用者が困っている。早く次を探してほしいが、そもそも商店街を「近隣センター」と位置付けているのはなぜか。

答 中学校区単位でコミュニティ機能を持たせることを目的としていた。落合については、早急に新しい店舗を探すよう東京都住宅供給公社に要望している。



しのづか元 (多摩みらいの会)

- 1.多摩ニュータウンの再生について
- 2.学校跡地等の有効活用について

問 永山駅周辺拠点の再構築プロジェクトの進捗状況と、進める中で見えてきた課題について伺う。

答 現在、地権者との勉強会、話し合いを東京都と共に進めている。施設更新のタイミング、経費など地権者によって相違があるが、合意形成を図っていく。

問 コンパクトシティを実現するためのマスタープランである立地適正化計画は、計画に位置づけた誘導施設の整備に国の財政支援が得られる、というメリットがある。策定についての見解を伺う。

答 都市計画マスタープラン、交通マスタープランの改定作業とあわせて策定を進めていく。

問 旧南永山小学校跡地の暫定活用は、民間から具体策の提案を受け、市民に見える形で進めるべきと考えるがいかがか。

答 民間事業者から提案を受けることは有効である。今後、南多摩尾根幹線整備の状況、団地再生の動きなど捉えながら検討していく。

